

昭和57年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 専門技術員室名称 沖縄県漁業者センター専技室
 普及区域 県下一円

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企 画	1. 沿岸漁業改善資金運用事業 (沖縄県沿岸漁業改善資金貸付規則及び基準要綱)	7月、9月 11月 2月	漁業者センター 一	市町村、漁協 漁業者	漁政課、農改普及所、水産試験場、市町村、漁協、県漁連、信漁連、漁業者センター	1. 改善資金運営協議会(9月、11月、2月計3回) 経営等改善資金60件89,043千円 生活改善資金12件9,600千円 計 72件98,643千円 2. 運営委員16名	(1) 水産業改良普及組織と生活改善普及組織の連携 (2) 水産業改良普及指導活動の一環として定着させる。
	2. 漁業後継者対策事業(沖縄県漁村青少年協議会々々則)	9月、11月 2月 5月、10月 1月 11月、2月 3月	漁業者センター 一 八重山地区 宮古地区	沖縄地区 青少年協議会(委員8名) 八重山地区 青少年協議会(委員5名) 宮古地区 青少年協議会(委員5名)	漁政課漁業者センター、研究グループ代表団体、漁協市町村学識経験者、八重山支庁研究グループ、代表団体、漁協、市役所、学識経験者、宮古庁	1. 漁村青少年グループの現状と活動実績の把握 2. 学習会、技術交流会、青少年水産教室の開催と協力態勢(各普及地区) 3. 活動実績発表大会の準備及び参加(昭和57年度青壮年5名婦人2名計7名発表)(担当普及員、漁協等指導協力) 4. 新技術実証事業の成果と波及(八重山地区青少年協議会、八重山漁協)	(1) 青少年の意向集約 (2) 実践活動の評価 (3) 委員活動の自主性
事 業							

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
企画事業					研究グループ 代表、団体漁協 市町村、学識 経験者	青年部)	
	3. 婦人農漁業従事者広域セミナー	8月	沖繩市	婦人農漁業従事者	営農指導課、中部農政普及所 漁業者センター、市町村 農協、漁協	。 農漁家婦人の家庭生活及び生産活動の共通課題から生活環境健康労働障害について検討、討議は4分会農業部門60名漁業部門20名計80名参加	北部、中部地域は終了したので南部でのセミナー開催する。
	4. 漁家生活改善推進協議会(現地調査、検討)	11月 1月、3月	勝連町	勝連町 平敷屋、漁協 婦人部	営農指導課、中部農政普及所 勝連町役場、平敷屋区長、勝連漁協	。 広域セミナーに関連して漁家婦人の生産活動、生活環境、健康管理、漁労障害について生活改善普及員と協同で現地調査実施	婦人部組織づくり指導、経営改善の指導、家族の健康づくり、快適で文化的な生活への展開
	1. 沿岸漁業改善資金(資金需要調査)	4月~3月	3普及地区	漁業者及び関係団体	漁政課、漁業者センター 農政普及所、宮古、八重山支庁 市町村、漁協	。 昭和57年度資金需要調査 経営等改善資金475件 276,820 円 生活改善資金 84件 54,080 円 後継者等養成資金 16件 15,600 円 計 575件 346,500 円	(1) 普及事業に関連するものを優先する。 (2) 貸付規則等による内容の検討
調査事業	2. 漁具、漁法図譜(調査、作成)	4月~3月	沖繩南部地区	普及員	漁協	。 漁具の構造、性能、漁法等調査し 漁具漁法図集の作成や少年水産教室	継続調査

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
調査事業	3. 漁船装備状況調査	10月～3月	3普及地区	普及員 漁業者	市町村、漁協	の教材とする。 。アンケート形式に調査用紙を市町村漁協に配布して調査依頼しその回答収集	改善資金貸付等に関する参考資料に供する。
	4. 組織的調査研究(協力)	随時	水産試験場	トビイカ釣漁業者	漁政課 水産振興課 漁業者セクタ 一、県漁連	1. 県水試が行うトビイカ漁業の調査研究の検討現地説明会 2. 活動チームによる聞き取り、標本船調査及び関連調査 3. 昭和57年度調査結課報告検討会(水試、行政、団体、市町村、漁業者)	調査は57年度で終了した。
	5. 人工魚礁の利用状況調査(協力)	4月～3月	3普及地区	糸満漁協 与那原漁協	水産試験場 水産振興課 関係市町村	1. 人工魚礁の効率の利用方法、魚礁位置の指導 2. 利用状況を調査し沿岸漁場整備開発事業に役立てる。	
試験事業	1. イバラノリ技術改良試験	5月～3月	国頭村 有銘湾		普及員 国頭漁協 慶佐次支部 青年部研究グループ	。養殖方法は母藻を網に結着し浮流し式で実施した。その結果母藻結着後25日～30日で1回目の収穫が可能網一枚(モズク養殖に使用したものと同網)当りの生産量は70～80kgで4～5回は収穫可能である。詳細については技術改良試験で	実証事業への展開

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
試験事業	2. 曳縄釣技術改良試験	7月～11月	久米島	漁業者	久米島漁協 漁業普及員	報告する。 。 浜口式トロリーリング方式による中層曳と曳縄自動釣機の性能試験を実施した。結果は自動釣機の操作や性能については上出来であり省力化の期待がもてるけれども肝心の釣獲試験については何等成果を得ることが出来ず失敗に終わった。	曳縄道糸、擬餌釣の改良を図る。
	1. 漁業技術研修	4月～3月	漁業者センター —	改良普及員	専門技術員	。 専門技術については広く知識を深め地域漁業者の指導にあたる。 (1) 導入機器の性能及び改善（曳縄釣機）	
	2. 増養殖技術研修	6月 8月	読谷漁協 恩納漁協		専門技術員 専門技術員	(1) ウニの移殖放流と漁場管理について（読谷漁協ウニ研究グループ） (2) モズク養殖と品質管理について（恩納漁協モズク養殖グループ）	
改良普及員 研修事業	3. 普及職員一般研修	4月～3月	三重県 漁協者センター —	全国専門技術員、3地区改良普及員	水産庁、三重県、専門技術員	。 昭和57年度水産業専門技術員研修会（5月）一般研修 (1) 普及活動のあり方、後継者育成事業について (2) 57年度予算と事業の円滑な執行	

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
研究事業						<p>について</p> <p>(3) 青少年協議会の運営について</p> <p>(4) 沿岸漁業改善資と普及指導活動について</p> <p>(5) 青壮年婦人活動実績発表大会の今後の推進方について</p>	
						<p>(1) 曳縄釣漁業の省力機器について</p> <p>(2) アイザメ漁場と資源関係について</p> <p>(3) 浮き魚礁の効果と釣漁業について</p> <p>(4) ウニの移殖放流と漁場管理について</p> <p>(5) モズク養殖と品質管理について</p>	
指導事業	1. 巡回指導	4月～3月	<p>仲里村</p> <p>糸満市</p> <p>漁業者センター</p> <p>誌谷漁協</p> <p>恩納漁協</p>	<p>漁業者</p> <p>漁業者</p> <p>漁業者</p> <p>漁業者</p> <p>漁業者</p>	<p>市町村、漁協</p> <p>市町村、漁協</p> <p>市町村、漁協</p> <p>漁協</p> <p>漁協</p>	<p>(1) 漁具漁法増養殖技術沿岸漁業改善資金活用その他普及活動、後継者育成事業に係わること。</p> <p>(2) 研究グループの自主的運営、組織活動の充実拡大を図る。(研究グループ14名、漁協青年部13、婦人部10名)</p> <p>(3) 巡回相談、青少年協議会の運営指導</p>	
						<p>沖繩地区</p> <p>(38回)</p> <p>宮古地区</p> <p>(3回)</p> <p>八重山地区</p> <p>(4回)</p>	<p>市町村</p> <p>漁協</p> <p>研究グループ</p> <p>漁業者</p>
	2. 技術交流会	5月、6月	沖繩地区	漁協	市町村、漁協		

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
指		8月、12月		生産グループ 漁業者 平良漁協	屋久島水改普及所 3 漁協 伊良部町役場 下地町役場	(2) モズクの種保存について (3) トビロープ漁業技術（屋久島） (1) 曳縄釣漁業技術 (2) 立縄漁業技術	
	3. 交流学習会	7月	沖縄地区 (水産試験場)	漁協婦人部 漁業者 市町村、漁協	水産試験場 漁業者センター —	トビウオとトビイカカの加工について講演と実技研修（石川県山瀬登氏）	
導	4. 青年水産教室	6月	沖縄地区 恩納村 読谷村	市町村、漁協 漁業者 研究グループ	漁政課 市町村、漁協 読谷漁協	。 漁業権についての学習会（漁政課 新城博氏） 。 ウニの増養殖について（水産高校 石垣先生）	
		6月					
事		9月	本部町	漁業者	市町村、漁協	。 ヒジキの株移植とトビロープの漁具漁法について学習会（伊江漁協又 吉久仁氏漁業者センター瀬底）	
		2月	漁業者センター —	市町村水産 担当者	市町村、漁協	。 漁業協同組合運動について（漁政 課北村盛武氏） 。 水産業の将来と市町村行政につい て（水産高校上江田不二夫先生）	
業		3月	那覇市	青年部 研究グループ	市町村、漁協	。 漁協青年部活動と連合会組織につ いて講演（長崎県漁連漁政課長	

事業区分	課 題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
指導事業	5. 少年水産教室	8月	漁業者センター —	中学生	沖繩水産高校 水産試験場 糸満漁協、漁業振興基金(財)	吉田忠雄氏 。 漁業者の子弟に漁業に関する初歩的な知識及び技術、実習を中心に夏学期級を6日間実施した。	
	6. 漁村青壮年婦人活動実績発表大会 (7回目)	10月	那覇市	3普及地区 漁協青年部 漁協婦人部 研究グループ	漁政課 水産振興課 関係機関	。 県産業祭の一環として水産振興大会と呼応して漁村青壮年婦人の自主的な研究活動実績の成果を発表させ相互間の交流活動意欲の向上を図る。 (参加者300名)	
	7. 沿岸漁業改善資金運用指導	4月～3月	3普及地区	改良普及員 生改普及員 市町村、漁協 漁業者	漁政課	。 普及活動指導の一環としてとりくむ。	

昭和57年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県

改良普及員室名称 県漁業者センター水産業改良普及室

普及区域 沖縄本島地区

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企 画	。 漁業後継者対策 事業	9月～3月	伊江村 具志頭村、漁 業者センター	漁村青少年	青年部、市町 村、漁協、団体 学識経験者	。 漁業後継者対策事業の検討、策定 のための委員会開催（年4回）	。 漁村青少年の意向 集約 。 実践活動の評価 。 委員会活動の自主 性
	。 沿岸漁業改善資 金運用事業	9月、11月 2月	漁業者センタ ー	漁業者 協	漁協、市町村 農改普及所 漁連、信漁連	。 改善資金の事業計画の検討策定及 び申請書類の検討のための常任委員 会への参画 。 取扱い件数については専技活動記 録に集約	。 運用面での沿岸漁 業改善資金の貸付 事業を普及指導し 活動の中に取組む
事 業	。 漁船技術修練会	1月～2月	石垣市 知念村	漁業者	漁協 日本電波協会 日本船舶職員 養成協会	。 特殊無線技士免許（無線電話甲） ¥552,000 昭和58年1月4日～ 1月13日まで講習会開催31人が 受講し全員合格した。 。 1級小型船舶操縦士免許 ¥1,374,000 昭和58年1月10日	継続実施

事業区分	課 題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
調 査 事 業	。 漁場調査	10月～3月	知 念 村	生産グループ	漁協、市町村	<p>～2月14日まで講習会開催34人が受講し全員合格した。</p> <p>。 ヒトエグサの養殖漁場調査 前年度に基礎調査を終了し養殖事業への見通しを得た。(知念村志喜屋生産グループ) 57年度は前年度の調査結果をもとに網数にして200枚でスタートした。</p> <p>。 モズクの養殖漁場調査 前年度に比べ57年度は後期に入って底水温期が続いたため早出し網の生育がわるかったため大寒期の1月から2月初旬にかけての①採苗②沖出し時期の調整等についての指導を行なった。</p>	必要に応じて実施
	。 漁 場 調 査	9月～3月	長志川市 与那原町	婦 人 部 生産グループ	漁協、市町村	<p>。 ヒジキの漁場調査 株石の移植に伴なう漁場の選定及び調産指導と処理加工場(構改事業)計画への参画、さらに成分、分析等のサンプリングについての協力の</p> <p>。 海浜汚染状況調査</p>	必要に応じて実施
。 漁業公害調査	4月～3月	国 頭 村		漁協、水試			継 続 実 施

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項	
調査事業	魚礁調査（協力）	7月～3月	外11地区		市町村	前年度と同様な方法で実施した。 （結果は主管課報告） 。 沿岸観測（測定調査） 海洋オイルボール調査のみなお して57年度から新たに沿岸漁場 の観測調査を実施した。調査は①水 温②比重③P、H④DOの4項目に ついて行なった。（結果は主管課報告） 。 魚礁を調査その効果と位置を周知 すべく沿整用務に協力した。	効果調査及び集約	
			渡嘉敷中 外5ヶ所	漁業者	漁協、市町村			
研修事業	交流学習会 普及員一般研修 普及員行政研修 技術交流事業	7月 4月、3月 10月 5月	水試開放実験 室	漁業者、漁協 婦人部、市町 村、加工業者	漁協、水試	石川県の山瀬登氏による「多獲性 魚（トビウオ、トビイカ）の加工」 についてと題しての講演と実技研修 を3日間行なった。参加人員は延べ 73人 。 専門技術員による行政一般及び専 門事項についての研修が行なわれた。 （普及員13人、2回） 。 昭和57年度水産業改良普及職員 行政研修会に1名参加 。 モズクの処理加工についての技術		
			漁業者センター	普及員				
			東京	普及員				
			奄美大島	漁協加工担当				

事業区分	課 題	実施時間	地区又は場所	普及対象者	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
研 修		6月～12月	北部地区	生産グループ	所 漁協、村	研修 収穫後の処理加工についての視察 研修を奄美大島において実施した。 県下における処理状況と奄美の処法 とは工程上の違いがあり、その手法につ いて研修を受けた。(詳細について は57年度活動実績報告書参照) 研 修期間3日間、参加人員5名 。 モズクの種保存についての講習会 ビニールシートによる盤状体の冷 蔵保存の講習会を延べ5回実施した。 。 トビロープ漁業について(トビウオ) 従来の沖縄式トビウオ追込網漁業 は10～12名で構成した操業方法 であるので生産額に応じて個々の収 入が低いため漁船2隻に4名で操業 出来る屋久島式トビロープ漁業の導 入を計画し鹿児島県屋久町へ15名 の漁業者を引率し研修を実施した。 。 ヒジキの株移植についての学習会 ヒジキの株移植については北部地	必要に応じて実施
事 業	。 技術交流事業	8月	屋久島	漁業者	屋久島水改普 及所		県内消費ではトビウ オは生産過剰が予測 されるので、県外へ 流通対策を展開する 必要がある。
	。 漁業技術研修会	9月	北部地区	生産グループ	漁協、村		必要に応じて実施

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
研修事業		12月	伊是名村	青年部	漁協、村	<p>区において青年水産教室で実施した。 参加人45名</p> <ul style="list-style-type: none"> 。パイ貝移植についての学習会 。パイ貝移植と移植後の調査及び学習会を延べ2回実施した。 	必要に応じて実施
試験事業	。イバラノリの養殖についての技術指導	4月～3月	国頭村 東村	青年部	漁協、村	<ul style="list-style-type: none"> 。養殖方法について 。養殖方法をみだすために5段階に ついて実施したところ「浮流し養殖」 による方法が適当であることが分った 。採苗及び結着方法について 。散布式の併用による藻体採苗と藻 体結着の2方法について実施した。 。前者については今後さらに調査研究 の必要があるが後者については十分 有効であり現在有銘湾で同方法で養 殖実施されている。 。生長と収穫及び養殖時期について 。生長については1日平均0.9~1.0 cmの伸長がみられるため25日～ 30日には1回目の収穫が可能で である。養殖時期については水温 	昭和58年度は新技術実証事業で実施する。
							継続実施

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
事業区 分	。 曳縄釣漁業技術の開発と省力機の導入(技術改良試験への参加と協力)	7月、11月	久米島沖 栗国沖	青年部	漁協 水試	<p>が23℃～26℃の3月～6月頃がよく生長する。(詳細については57年度活動実績報告書参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> 。 カツオ、マグロ、サワラを対象に中層曳縄釣の漁具、漁法を試みたが失敗したので58年度に向け改良を検討中である。 。 省力化機器の導入についてはある一定の成果はあったが小型漁船にも設置できるよう改良工夫する必要がある。 。 移植放流と養殖カゴ(コンテナカゴ)による垂下方式の蓄養を行わないウニの身入り効果を高めた。(第7回沖縄県漁村青年婦人活動実績発表大会報告) 	継続実施
	。 ウニ養殖試験	4月～3月	読谷村	研究グループ	漁協	<ul style="list-style-type: none"> 。 移植放流と養殖カゴ(コンテナカゴ)による垂下方式の蓄養を行わないウニの身入り効果を高めた。(第7回沖縄県漁村青年婦人活動実績発表大会報告) 	継続実施
指導事業	。 巡回指導	5月～3月	糸満市 外5地区	青年部 研究グループ	漁協、市町村	<ul style="list-style-type: none"> 。 記録と計画の中から効率的漁業生産をあげ漁家経営の安定成長を図るため漁業日誌記帳の重要性について青年グループを中心に指導した。 	簡単な漁業日誌を作成し業能別に配布し記帳への指導を強化する。
	。 青年水産教室	6月	恩納村	漁業者	漁協、市町村	<ul style="list-style-type: none"> 。 漁業権について 	

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
指導		2月	漁業者センター	青年	漁政課	漁業権の一斉更新が58年度に実施されるため県漁政課に講師を依頼し漁業権の趣旨並びに参加者の意見を聴取する方法で80名参加による学習会を開催した。	継続実施
			-		漁協、市町村	漁政課の組合指導係を講師として県内の漁業協同組合の経営内容の実態と損益計算の見方及び組合運動についての学習会を実施した。参加人員35名	
事業		2月	漁業者センター	漁業者	漁協、市町村	沖繩県立水産高校の上江田先生による「水産業の将来と市町村行政」についてと題しての講演があり当日は中、北部水産研究会のメンバーと中、南部の漁協職員による意見交換が行なわれた。参加人員35名	
			-		漁協	ウニの増養殖について 沖繩県立水産高校の石垣先生によるシラヒゲウニの種苗生産と題しての学習会を実施し後に読谷村漁協の	
業	青年水産教室	6月	読谷村	研究グループ 生産グループ	漁協		

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
事業指導		9月	本部町	漁業者	漁協、市町村	<p>新垣吉雄氏の養殖場において、ウニのカゴ養殖についての実技研修を行った。参加人員20名</p> <p>。ヒジキの株移植とトビロープ(浮敷網)の漁具漁法について</p> <p>伊江漁協の又吉氏によるトビロープ漁業についてと題しての学習会とヒジキの株移植についての学習会を実施した。特にトビロープ漁法については関心が高く、参加者からの質問等が活発に行なわれた。参加人員45名</p>	
		3月	那覇市	青年部 研究グループ	漁協、市町村 関係機関	<p>。漁村青壮年グループのリーダー育成を目的に長崎県漁連の吉田漁政課長による「漁協青壮年部活動と連合会組織」についてと題しての講演と各青壮年部による活動状況の報告と全体討議をシンポジウム方式を取り入れたパネル、ディスカッションを行った。参加人員60名</p> <p>。漁村の子弟に夏休み期間中を利用</p>	継続実施
	。少年水産教室	8月	漁業者センター	漁村子弟	漁協、市町村		

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
指導事業	。 漁村青壮年婦人活動実績発表大会	10月	那覇市	青壮年部 婦人部 研究グループ	水産高校 漁業振興基金 漁協、市町村 農改普及所 関係機関	して水産に関する初歩的な知識及び 実技実習を中心に6日間の夏期学級 を開催した。(10市町村、27名参加) 。 漁村の青壮年婦人グループの自主 的な研究活動の成果を発表し相互間 の知識の交流と活動意欲の向上を図 るために活動実績発表大会を開催し た。参加人員300名 発表者7人(青壮年5名、婦人2名) 知事賞 。青壮年の部 シラヒゲウニの養殖と漁場管理に ついて読谷漁協ウニ研究グループ、 新垣吉雄 。婦人の部 婦人部で取組んだ浜の清掃八重山 漁協婦人部、裁富子	継続実施
	。 オキナワモズク の養殖指導	4月～3月	管内区域	青年部 研究グループ 生産グループ	漁協、市町村	。 57年度は現場における養殖指導 をひかえて室内等でのビニールシー トによる盤状態の冷蔵保存について の指導を主に実施した。並行してモ	58年度は引き続き 処理加工に重点をお き指導にあたりたい

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
指導	。 ヒトエグサの養殖指導	10月～3月	知念村	生産グループ	漁協、市町村	ズクの処理加工については各単協別に巡回し講習会や県漁連主催の販売担当者会議等で説明会を実施し収獲後の品質管についてのけいもう指導にあたった。 。 前年度は基礎調査に重点をおき養殖の可能性をみいだした。57年度はその結果をもとにして本格的な養殖生産を目標に網数200枚を張り込み①種付けから②本張り③養殖管理にわたり定期的に巡回し指導に入った。しかしながら養殖後期に入ってグループの代表者が一身上の都合により3月現在中断された状態である。	グループ組織等について問題があるので次年度は内面的な面について話し合いながら必要に応じて実施したい。
事業	。 ヒジキの増殖指導	9月～12月	与那原町 具志川市	婦人部	漁協、市町村	。 株石をセメントで固定することにより容易に移殖が可能であることがわかった(昭和56年度活動実績報告書参照)ので57年度は植え付けにより増殖を図るために学習会や実地指導を重点に行ない23,000株の移殖を行なった。	継続実施

昭和57年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖 縄 県
 改良普及員室名称 宮古支庁農林水産課
 普及区域 宮 古 地 区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企 画 事 業	。 漁村青少年協議会	11月 16日 2月17日 3月8日	宮古支庁会議室、池間漁協会議室、宮古支庁会議室	宮古地区漁村 青少協議会	漁協、市町村 学識経験者	。 後継者対策事業の検討、策定のため の委員会の開催（年3回）実施した。	。 漁村青少年の意向集約 。 実践活動の評価 。 委員会活動の自主性
	。 沖縄県沿岸漁業改善資金の運用事業	9月11日 2月	漁業者センタ ー	市、町、村 漁 業 者 漁 協	漁 農改普及所 県信漁連 市、町、村	。 改善資金の事業計画の検討、策定 及び申請書類の検討のための常任委 員会への参画	。 運用面での沿岸 漁業改善資金の貸 付事業を普及指導 活動の中に取りく む。
調 査 事 業	。 漁業公害調査	4月～3月	平 良 市 (真 謝)	漁 協	漁 協	。 海兵状況観測及び水質測定調査実 施（結果は主管課報告）	。 継続実施
	。 魚礁の調査（協力）	3月21日 3月27日	平 良 市 (大神、高野 沖)	漁 業 者 漁 協	漁 協 市、町、村	。 魚礁利用による漁具の改良普及と 魚礁位置と山立て方法の指導を行い 沿整事業に協力した。	。 継続して調査を実 施する（協力）
	。 技術交流会	3月	伊良部町	研究グループ 3	漁 協	。 伊良部町佐良浜において「曳縄、	

事業区分	課 題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
研 修 事 業			(佐良浜)	後 継 者	伊良部町 下 地 町	立縄漁業」について交流を行なった。 交流会は伊良部町でジャンボ釣漁法 を主に行なっている前里定吉氏外2 名による技術指導を中心に行われた。 今回の3氏による技術指導は極めて 有意義であった。最後に今後ともお 互いの交流に深めることを確認し、 技術交流会を修了した。	
	。 普及員一般研修	4月、3月	漁業者センタ ー	普 及 員		。 専門技術員による行政一般及び専 門事項について研修が行われた。 (普及員2名)	
指 導 事 業	。 巡回指導	4月～3月	下 地 間 池	漁 業 者 研究グループ	市 町 村 漁 協 青 年 部 青 壮 年 水産高校	。 釣漁具、漁法(立縄、タル流し、 底魚一本釣)の学習会と漁具の製作 と乗船実技指導を行なった、 (4日間 参加人員21名)	
	。 少年水産教室	8月	漁業者センタ ー	漁村子弟	漁協、市町村 漁業振興基金 佐良浜、池間 中学校	。 漁村の子弟に夏休みを利用して水 産業に関する初歩的な知識及び技術 学習を中心にした夏期学級を開催し た。(今回は宮古から5名参加した) (池間中3名佐良浜中2名)	継 統
	。 青年水産教室	11月	平 良 市	青 年 部	漁 協	。 クビレツタ(海ぶどう)の増養殖	継 統

事業区分	課 題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
事業区分	。 青年水産教室	1月	平良市	漁業者 研究グループ	漁 協	の手法について実技を兼ねた講習会 を行なった。(参加人員45人)	
				青年部 漁業者 研究グループ		。 漁村の青年が学習会を通して知識 と技術の向上を図るため漁業者、漁 協青年部、研究グループを対象に「漁 業経営に於ける漁協の役割について」 と題して講演を行なった。 (参加人員21名)内容は次のとおり ① 漁協組合法の成立過程と戦後の 漁業法について ② 制度資金利用方法及び漁協の財 務内容について 講師一宮古支庁農林水産課組合担当 長 嶺 巖	
事業区分	。 漁村青壮年婦人 活動実績発表大会	10月	那覇市	青年部 研究グループ 婦人部	漁協、市町村 農改普及所 関係機関	。 漁村の青壮年婦人グループの自主 的な研究実績活動の成果を発表し地 域の相互間の知恵の交流と活動意欲 の向上を図るため、県大会が那覇市 福祉会館で開催された。宮古から下 記の通り参加した。 ① 漁協青年部結成と今後の活動に	継 続 実 施

専業区分	課 題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項																				
指 導 事 業	。オキナワモズク養 殖指導	4月～3月	管内全域	青年部 研究グループ その他漁業者	漁 市 町 村 協 村	<p>について</p> <p>平良市漁協青年部－神里裕夫</p> <p>② 地域に役立つ漁協婦人部活動をめざして</p> <p>池間漁協婦人部－仲地政字</p> <p>。主にグループの育成指導</p> <p>。種苗（モズク）の越冬保存、育苗本張、収穫並びに収穫後の加工処理について実技指導</p> <p>。生産量は昨年の760tを大きく下回り270tであった。これらの原因は昨年の増産に伴うモズクの値下りとあいまって養殖業者が少なかつたのが減産の理由である。実績は下記のとおり</p> <table border="1" data-bbox="919 425 1166 840"> <thead> <tr> <th></th> <th>56年</th> <th>57年</th> <th>天然産</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>網の枚数</td> <td>10,540</td> <td>3,971</td> <td>56年</td> </tr> <tr> <td>組</td> <td>70</td> <td>36</td> <td>534トン</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>133</td> <td>54</td> <td>57年度</td> </tr> <tr> <td>生産高</td> <td>760t</td> <td>272t</td> <td>381トン</td> </tr> </tbody> </table>		56年	57年	天然産	網の枚数	10,540	3,971	56年	組	70	36	534トン	人	133	54	57年度	生産高	760t	272t	381トン	継続実施
	56年	57年	天然産																								
網の枚数	10,540	3,971	56年																								
組	70	36	534トン																								
人	133	54	57年度																								
生産高	760t	272t	381トン																								

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及及活動事項	翌年度への展開事項
指導事業	。 ヒトエ草の養殖指導	10月～3月	伊良部町	漁業者	漁町協役	。 種付、網張、その他管理面の技術指導	継続実施
	。 タル流し漁具漁法の普及指導	11月19日～20日	来間島沖	研究グループ	漁協	。 漁具の製作、使用並びに操業方法について実施した。	
	。 沿岸漁業改善資金の活用指導	4月～3月	管内全域	漁業者	漁協(3)市町村農改普及員専技県信連漁連	。 貸付申請手続き及びその利用について事業事務指導 。 申請件数 ① 漁宮等改善資金 1件 2,495 ② 生活改善資金 3件 1,600円 ※ ②の内1件は不適確	。 水産業改良普及組織と生活改良普及組織と連携 。 運用の面で沿岸漁業改善資金の貸付漁業の普及指導活動の中にとりこむ。

昭和57年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖繩県

改良普及員室名称 八重山支庁農林水産課

普及区域 八重山地区

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体名	普及活動経過	翌年度への展開事項
事業企画	。八重山地区漁村青少年協議会	4月～3月	普及地区	漁村青少年	市 漁協青年部	第1回9月13日 。昭和57年度予算執行について 。漁村青少年婦人活動実績発表大会 派遣について 。八重山地区産業祭りの取り組みについて	より多くの漁業青年層に協議会の主旨を周知させ、要求をはりおこし事業計画に反映させる。
	。沿岸漁業改善資金運用事業	7月～3月	普及地区	漁業者	市、町、漁協 農改普及所	第2回12月25日 。産業祭り、実績発表大会の報告 。青年水産教室の開催について 第3回3月21日 。57年度事業報告、検討 。リーダー研修の報告 。58年度沿岸漁業改善資金貸付計画案の説明 。申請指導、事業計画の検討、策定 改善資金運営協議会への参画	普及活動との結合

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
企画事業						経営等改善資金 4件 7,929 千円 生活改善資金 7件 5,600 千円 新繁殖技術導入資金 1件 4,000 千円 計 12件 17,529 千円	
調査事業	。漁業公営調査	4月～3月	指定漁場 (白保名蔵)	八重山漁協	漁協	。漁場巡回帳記入指導 土地改良事業、畜産基地造成に伴 なう赤土流出問題に関し、その防止 対策について関係機関と協議	継続
	。シャコ貝放流及び生残状況調査	7月～3月	川平湾 登野城地先	漁業者	水試、漁協 市	。シャコ貝研究グループを作り、水 試で生産した種苗を穴うめ方式で放 流した(放流数3千個) 。ブロックにシャコ貝を付けて、こ れを登野地先に沈設し貝の生残状況 を調べた。穴うめ方式よりかなり生 残率が高い。(放流300個約8割 生残)(水試事業報告書参照)	穴うめ方法の改良継 続調査
	。中層浮魚礁効果調査	5月～10月	黒島沖	漁業者	漁協	。浮魚礁周辺の曳縄釣、魚探調査漁 業者からの聞き取り調査	継続実施
	。カタメンキンサイ種石の移植場	9月～3月	西表島	漁業者	研究グループ 町、漁協	。県50万円、町35万、地元18 万3千8百円の事業でカタメンキン	継続実施

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
調査事業	調査					ンサイの種石を移植し、周辺に鶏糞を施肥、前年度に移殖した所は収獲前の台風の影響で減少した。	
試験事業	。シラヒゲウニの移植放流	6月～10月	新川黒島	研究グループ	魚市協	。稚ウニを養場の多い漁場へ移植放流、前年度放流した漁場では身入りは良好だが生残率が低い。	。放流場所の選定漁場調査、比較検討
	。ヒトエグサ人工採苗試験 (新技術実証事業)	5月～3月	水試八重山支場	漁業者	魚協、水試	。5月にヒトエグサの接合子をアクリル板約50枚に付着させ、それを越冬保存した。11月に遊走子放出を試みたが放出が少なかった。(詳細については57年度活動実績報告書参照)	。保存板をふやす 。遊走子の放出試験網つけ
研修事業	特別研修(短期)	5月	三重県		三重県伊勢湾水試	。三重県伊勢湾水試、三雲漁協でヒトエグサの人工採苗技術を実施研修。	。人工採苗技術を沖縄に適応できるよ
	採苗 。普及員一般研修	4月、3月	漁業者センター	普及員	三雲漁協	(詳細については57年度活動実績報告書参照) 。専門技術員による行政一般及び専門事項についての研修が行なわれた。(2回)	うに改良する。
指導事業	。少年水産教室	8月2日～7日	漁業者センター	漁村子弟	魚市、魚協、漁業振興基金	。漁村の子弟に夏休みを利用して水産業に関する初歩的な知識及び技術	継続

事業区分	課題	実施時間	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	翌年度への展開事項
指導事業	。 青年水産教室	3月1日	石垣市	漁業者	気象台 漁協	学習を中心にした夏期学級を開催した。(参加者5名) 。 石垣島地方気象台の金城技術課長により「漁業気象について」と題し講演が行なわれた。参加者32名	
	。 漁村青壮年婦人活動実績発表大会	10月	那覇市	研究グループ 婦人部	青少年協議会 漁協、市 普及所	。 研究グループや婦人部の研究、活動実績を発表し、学識者、経験者の助言を受け、今後の活動方針をたてるとともにグループ員の活動意欲を高め、研究グループ、婦人部の組織強化を図る。	継続実施